

九月三日

十一時過京王線車中。左隣りの学生が分厚い漫画本を、カン入りコーヒー飲みながら読んでいる。ヘッドホーンしてるから、何やら音楽も聴いているのだろう。斜め向かいの女の子がケイタイをピクピクしている。そのケイタイにはデッカイ、マスコット、ケイタイと同じくらい、アレは不二家のペコちゃんらしきが垂れ下がっている。ペコちゃんがペコちゃんぶら下げている図だな。しかし、車中で化粧している女に全く美人が居ないのと同様、ケイタイ車中で使う女に美人は皆無だな、皆、風俗関係者に見えてしまう。ケイタイはある種の自己露出型のマスコットなんだな、すでに。自己露出の自己許容度によって品格がおのずと知れるのだ。

十二時研究室、幾つかの打ち合わせ。十八時迄。スケッチ少々。ブロンペンの渋井さんから連絡があり、ひろしまハウスでの音楽会は難しいだろうとの事。別の場所を探す必要があるかも知れぬ。日本での寺院での催しの可否と、カンボジアでのそれとが異なる事情があるのは理解できる。

雷が鳴りひびき、雨が降り始める。秋なのに、梅雨明けの感じ。二十一時五〇分京王線桜上水辺り。雨その他で電車が動かさず、新大久保駅のソバ屋で足止め。

九月四日

午前中世田谷村で原稿書き。十一時半修了。渡辺保忠先生の「工業化の道」についてのエッセイ。工業化の道について書くのに、前振りが長くなって、結局本題は一、二枚になってしまった。私のエッセイの全ての特徴だなこれは。書きながら、田辺泰、渡辺保忠両先生を懐かしく思い出した。焼魚、納豆、鳥肉の唐揚げ、御飯の昼食を一人で食べる。晶文社からもらった五十嵐太郎の競争と建築読む。パラパラと読むのが合う本だな。しかし博識である。晴れてはいるが暑くはなく、良い風が吹き込む世田谷村で、午後は本格的な書く事に当たってみようと決めた。塩野七生のイタリア遺聞を二、三拾い読み。これはパラパラじゃなくって、短いけれども拾い読み、をする。TVをつけてみたら、ひどい時代劇をやっているあわてて消す。仕事の前に、少し本を読みたい。十八時「現代の特質」を再び書き始める。今度はやつつけてしまおう。